

公益財団法人日本バレーボール協会 2018年度第2回理事会 概要

1 日 時：2018年5月29日(火) 14:00～17:15

2 会 場：日本バレーボール協会 会議室

3 出席者：

理事総数 19名

出席理事 18名

会長（代表理事） 嶋岡健治

副会長（理事） 志水雅一、岡野貞彦

専務理事（代表理事） 八田茂

業務執行理事 鳥羽賢二、鍛冶良則

理事 荒木田裕子、加治健男、川合俊一、桐原勇人、小柴滋、
坂本友理、須藤実和、田中祥子、原卓弘、丸山由美、
山口香、朝日健太郎

監事総数 3名

出席監事 2名 西川秀人、廣紀江

本部長総数 3名

出席本部長 3名 小田桐隆司、村上成司、灰西克博

4 議 長：嶋岡健治

5 決議事項

- (1) 第8期（2017年度）決算について
- (2) 第8期（2017年度）事業報告について
- (3) 定時評議員会の開催及び目的事項について
- (4) 臨時評議員会の開催及び目的事項について
- (5) 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）ビーチバレーボール種目の予選方式と日本代表チームの選考方法について
- (6) 印章取扱規程の制定について
- (7) 委員会委員の選任等について
- (8) 理事会の権限委譲について

6 議事の経過の要領及びその結果

会長が議長席に着き開会を宣し、本理事会は、定款第 41 条に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。その後、議事録記名押印理事に加治理事を選出し、議案の審議に入った。

(1) 第 8 期 (2017 年度) 決算について

第 8 期 (2017 年度) 決算について説明がなされ、賛否を諮り承認可決された。

冒頭、監事より下記の通り監査報告が行われた。

【監査報告】

公益財団法人日本バレーボール協会の第 8 期 (2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日) の業務及び財産の状況等について監査したところ、適正かつ公正に処理されており、その内容が事実であることを認める。

また、理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない。

【決算の説明】

第 8 期 (2017 年度) から事業区分の再編を行い、公益事業 4 事業、収益事業 4 事業及び法人会計の計 9 事業であったものから、3 事業 (公益/収益/法人会計) 区分制を用いたことにより、各事業部の予算と実績を正確に把握できるようになった。

当期の決算は経常収益計の予算額 2,461 百万円に対しての実績が 2,855 百万となり、予算額より 394 百万円の増収となった。経常費用計については、予算額 2,556 百万円に対して、実績が 2,527 百万円となり、予算額より 29 百万円減少となった。この結果、経常損益は予算額 95 百万円の赤字に対して、実績が 329 百万円と大幅な増益となった。前年度の税金の追加支払い (特定費用準備資金の積立額の税務処理につき税務署との解釈の相違によるもの) 103 百万円も含め、最終利益は 225 百万円となり、予算との対比では、2 年連続で増収・増益となった。

収入予算に対する増加の要因は、ワールドグランドチャンピオンズカップでの観客増による入場料収益の増加 (105 百万円)、JOC からの補助金・交付金の増加 (58 百万円)、国際大会における賞金獲得の増加 (35 百万円) など、その他ほぼ全ての項目で予算を上回る結果となった。

この結果、2017 年度の正味財産は 1,685 百万円となり、過去最高の金額となった。

なお、公益認定基準の三要件 (財務三基準: 「①公益目的事業比率」、「②収支相償」、「③遊休財産額保有制限」) は、いずれも満たしていることが報告された。

※第8期（2017年度）決算についての詳細は、資料記載のとおり

(2) 第8期（2017年度）事業報告について

第8期（2017年度の）事業報告について下記の通り説明があり、賛否を諮り承認可決された。

1. 事業の概況

(1) 主な日本代表の戦績

シニア男子	第19回アジア選手権大会	優勝
シニア女子	第19回アジア選手権大会	優勝
U-19男子	第15回世界ユース選手権大会	3位
U-23女子	第2回アジアU-23選手権大会	優勝
U-20女子	第19回世界ジュニア女子選手権	3位
U-18女子	第11回アジア選手権大会	優勝

(2) 執行部の刷新

今年度は定例による2年ごとの理事改選が行われ、6月14日の評議員会の結果を受け、会長をはじめとする執行部の大幅な入れ替えがあった。会長には一般社団法人日本バレーボールリーグ機構（以下「Vリーグ機構」という）会長を兼ねる嶋岡健治が就任し、新しく設けられた専務理事には外部より八田茂を登用し、2017年度の執行部は以下のとおりとなった。

会長（代表理事）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 嶋岡 健治
専務理事（代表理事）・・・・・・・・・・・・・・・・ 八田 茂
業務執行理事・事務局長・・・・・・・・・・・・・・・・ 林 孝彦
業務執行理事・ハイパフォーマンス事業本部本部長・・鳥羽 賢二
業務執行理事・ビーチバレーボール事業本部本部長・・桐原 勇人
業務執行理事・業務推進室長・・・・・・・・・・・・・・・・ 鍛冶 良則
その他非常勤理事14名を加え理事総数は定員いっぱいの20人となった。

(3) 事業区分の再整理

2017年度よりこれまでの9事業による報告から3事業での報告（公益、収益、法人それぞれ1本化）に移行した。

新しい事業区分は以下の通り。

- ・公益目的事業会計（バレーボールの強化・普及・振興事業）
- ・収益事業等会計（肖像使用・バレとも・物品販売等の公益事業の財源を獲得する事業）

・法人会計（管理）

（４）今年のトピックス

- ① **FIVB** 世界クラブ女子選手権 2017 神戸大会を初めて日本で開催した。
- ② 4年に一度のワールドグランドチャンピオンズカップを東京、名古屋、大阪で開催した。

（５）中垣内全日本男子チーム監督の人身事故について

2016年11月に起こした人身事故により、被害者をはじめ関係各所にご迷惑とご心配をおかけした。本会は2016年12月に本人をけん責処分とし、2017年1月に書類送検された後、5月に裁判所より略式命令を受け、6月8日より全日本男子チームに合流した。

（６）ビーチバレーボール国際大会への出場申請漏れについて

2017年6月に開かれた国際大会のエントリーを期限までに行わず、出場希望選手が大会に出場できなくなる事態を招いた。事態を重く受け止め、ホームページへの報告、内閣府への報告を行い、7月の理事会で関係者、責任者に対しけん責処分を行うとともにエントリー作業のスケジュール見直し、複数チェック体制などの再発防止策を講じた。

（７）体育館の床板の剥離による負傷事故について

2017年6月に本会が召集した男子ジュニアU21合宿参加中の大学生選手が床板の剥離による負傷事故が発生した。過去にも同様の負傷事故が発生しており、関係各所には注意喚起を行い、「危機管理基本マニュアル」を作成するなど防止策を講じていたが、この事故を受け、あらたに「アリーナ（体育館）木床使用におけるハンドブック」を作成し、本会ホームページにバナーを設けるとともに、都道府県バレーボール協会、全国連盟にも注意を呼びかけ、事故の防止と事故後の速やかな対処をお願いした。

（８）決算について

今年度は昨年度から続く男子チームの人気による入場料の増加もあり、予算を上回る増収・増益となった。今年度から始まった特定費用準備資金等の使用による費用（84百万円）の増加も吸収したうえで、税引後の利益は225百万円と昨年度に続く大幅な増益となった。

増益の要因としては、チケット収入が予算を105百万円上回ったほか、各種補助金・交付金も予算を58百万増加したことなどがある。

※第8期（2017年度）事業報告の詳細は資料記載の通り。

(3) 定時評議員会の開催及び目的事項について

定時評議員会の開催及び目的事項について、下記の通りに説明があり、賛否を諮り承認可決された。

2018年度定時評議員会を次の日時に開催するものとし、その目的事項（議題）として、以下の決議事項1件、報告事項2件とすることを提案する。

1. 日 時： 2018年6月13日（水）14：00～16：00

2. 場 所： 日本バレーボール協会 会議室

3. 決議事項

(1) 第8期（2017年度）計算書類等の承認の件

第8期2017年4月1日から2018年3月31日までの計算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書、財産目録）の承認を受ける件

4. 報告事項

(1) 第8期（2017年度）事業報告の件

(2) 評議員の任期満了及び次期評議員について

(4) 臨時評議員会の開催及び目的事項について

臨時評議員会の開催及び目的事項について、下記の通りに説明があり、賛否を諮り承認可決された。

2018年度臨時評議員会を次の日時に開催するものとし、その目的事項（議題）として、以下の決議事項1件、報告事項2件とすることを提案する。

5. 日 時： 2018年6月13日（水）16：00～17：00

6. 場 所： 日本バレーボール協会 会議室

7. 決議事項

(1) 評議員会議長の選定について

8. 報告事項

(1) 第8期（2017年度）計算書類等の件

(2) 第8期（2017年度）事業報告の件

(5) 第 32 回オリンピック競技大会（2020／東京）ビーチバレーボール種目の予選方式と日本代表チームの選考方法について

第 32 回オリンピック競技大会（2020／東京）ビーチバレーボール種目の予選方式と日本代表チームの選考方法についての説明がなされ、JVA 東京 2020 ビーチバレーボール日本代表選考基準について賛否を諮り承認可決された。

東京 2020 オリンピック ビーチバレーボール出場枠獲得プロセスについて（要旨）

◇全体出場枠 [1 カ国当たり最大 2 枠（男女とも）]

出場チーム（枠）数・・・男女各 24 チーム

出場選手数・・・ 男女各 48 人

日本は、下記の通り、①の開催国枠に加えて、②の（A）～（D）で出場権を獲得できれば、最大で 2 枠を獲得できる。

※ただし、2 つの出場枠が獲得された時点で、それ以降の出場枠獲得の機会是与えられない。

①開催国枠／2020 年（時期未定） **[=1]**

日本は男女各 1 枠が確定。開催国枠での出場選手については 2020 年（開催未定）に「日本代表候補選考大会」を開催して決定する。開催時期、出場資格などの詳細は、2019、2020 年の FIVB 国際大会スケジュール確定後に JVA ビーチバレーボール強化委員会にて協議の上、開催要項を公表する。

②その他の出場枠と選手決定時期

（A）オリンピッククオリフィケーショントーナメント（OQT）／2019 年開催予定

上位 2 枠が獲得できる出場枠 **[=2]**

↓

（B）2019 世界選手権／2019 年開催予定

優勝チームが獲得出来る出場枠 **[=1]**

↓

（C）オリンピックランキング／2020 年 6 月 14 日まで

上位 15 以内のチームが獲得できる出場枠 **[=15]**

↓

（D）コンチネンタルカップ ファイナル（各大陸予選）／2020 年 6 月 22 日～28 日開催

5 大陸におけるそれぞれの選手権で優勝チームが獲得できる出場枠 **[=5]**

※なお、コンチネンタルカップに出場する日本代表チームの選考方法、選考基準については JVA ビーチバレーボール強化委員会で別途定める。

※JVA 東京 2020 ビーチバレーボール日本代表選考基準は資料記載の通り。

(6) 印章取扱規程の制定について

印章規程の制定について説明がなされ、賛否を諮り承認可決された。

当協会において印章規程が制定されていなかったことを受け、今般「印章取扱規程」を制定いたしたい。

「印章取扱規程」においては、規程の目的、印章の定義及び種類、印影、責任体制、事故報告、使用方法等を定めるものとする。

※印章取扱規程の詳細については資料記載の通り。

(7) 委員会委員の選任等について

委員会委員の選任等について説明がなされ、賛否を諮り承認可決された。

氏名	委員会委嘱内容	現職
岩本 洋	2018年5月20日付 強化委員会 委員長退任	強化委員会 委員長 (ビーチバレーボール事業本部)
小田 勝美	※当面の間強化委員会委員長を代行 (ビーチバレーボール事業本部)	ビーチバレーボール事業本部 副本部長 強化委員会 副委員長
君島 知喜	強化委員会 委員 (主事) (ビーチバレーボール事業本部)	ビーチバレーボール事業本部 ビーチバレーボール業務部 (JVA 職員)

(8) 理事会の権限委譲について

理事会の権限委譲について、下記の通り説明がなされ、賛否を諮り承認可決された。

現在、定款において委員会の設置と委員の選任については理事会での決議によると規定されている。しかし、JVAの委員会関係者は同一人が兼務する数も含めると、300人以上となり、その全員分の資料を準備し理事会に上申することは、業務的にも非常に困難な状況にあるため、今後は下記の手順とすることをご了承願いたい。

【原則】委員会委員の選任手順

- ① 委員会内での人選 (委員会での候補者決定)
- ② 委員長が所管の本部長に推薦 (本部長承認)
- ③ 業務執行理事会に提案 (業務執行理事会の承認)
- ④ 理事会に提案 (理事会承認・決定)

【理事会の権限委譲】

委員長以外の委員会関係者（副委員長、委員、主事、副主事、部員等）については、理事会は業務執行理事会に権限を委譲し、業務執行理事会にて選任する。（委員長以外は、上記①～③の手順で選任し、事後理事会に報告する。）

7 報告事項

(1) 2018年度第1四半期職務執行報告

法令及び理事会運営規程に基づき、2018年度第1四半期の職務執行報告が行われた。主な報告内容は下記の通りである。

【嶋岡会長】

- ①全日本男子・女子チームキックオフ 挨拶
- ②各テレビ局とのヒアリング 実施
- ③薩摩川内市男子合宿視察 市長表敬訪問
- ④FIVB理事会（スイス）出席
- ⑤AVC理事会（タイ）出席
- ⑥バレーボールネーションズリーグ豊田／大阪大会視察（開催地御礼）
- ⑦愛媛県松山市市長・愛媛県知事表敬訪問
- ⑧小比賀忠和氏偲ぶ会（大阪府）参列

【八田専務理事】

- ①日本スポーツ協会加盟団体事務局長会議 出席
- ②ミズノメントール賞表彰式 出席
- ③ビーチバレーボールアジア競技大会選考大会 記者会見
- ④人事総研と人事考課制度の打合せ
- ⑤平塚市市長・藤沢市市長 表敬訪問
- ⑥ビーチバレーボール事業本部会／強化委員会 出席
- ⑦岩本洋氏告別式 参列
- ⑧組織委員会 NF 協議会 出席

【鳥羽業務執行理事／HP事業本部長】

- ①全日本男女シニアチームキックオフ
- ②全日本男女シニアチーム記者発表会
- ③全日本男子薩摩川内市紅白戦 視察他
- ④全日本女子シニアならびにアンダーカテゴリー強化合宿 視察
- ⑤ペルー女子ユースチーム 招聘対応
- ⑥JOC選手強化本部会 出席
- ⑦ルール用語等集約作業

⑧バレーボールネーションズリーグ豊田／大阪大会 視察

【桐原業務執行理事／ビーチバレーボール事業本部長】

※業務執行理事就任期間の2018年4月1日～30日までの報告

- ①ビーチバレーボール全国審判講習会 開催
- ②FIVB ワールドツアー東京大会 実行委員会 開催
- ③協賛社対応
- ④ジャパンビーチバレーボールツアー 沖縄大会 開催
- ⑤JVA カップ兼アジア競技大会 日本代表選考大会 開催
- ⑥ジャパンビーチバレーボールツアー マイナビ東京大会 開催

【鍛冶業務執行理事／業務推進室長】

- ①新入職員入職式対応
- ②日本スポーツ協会処分審査会 陪席
- ③コンプライアンス委員会 開催
- ④JVA 東京2020 準備委員会 出席
- ⑤監事会・報告会 出席
- ⑥公認推薦認定委員会 出席
- ⑦加盟団体代表委員総会・功労者表彰式 開催

【小田桐国際事業本部長】

- ①ワールドカップ2019 開催地調整
- ②世界選手権大会2018 契約書会議 開催
- ③FIVB、ルイス氏・カワサキ氏来局による国際大会調整会議
- ④各テレビ局との打合せ
- ⑤VNL Council Meeting(スイス)出席
- ⑥バレーボールネーションズリーグ男子大阪大会 追加会場下見
- ⑦AVC 理事会(タイ) 出席
- ⑧バレーボールネーションズリーグ女子豊田大会・男子大阪大会開催

【村上国内事業本部長】

- ①全国9人制審判講習会 開催
- ②審判規則委員長・国内競技委員長会議 開催
- ③第67回黒鷲旗全日本バレーボール大会 開催
- ④NPO 法人日本混合バレーボール協会との協議
- ⑤全国中学校体育大会中央連絡会 開催
- ⑥MRS 進捗説明会 実施
- ⑦平成30年度天皇杯・皇后杯実行委員会 開催
- ⑧2018年度第1回全国ブロック理事長会 開催

【灰西マーケティング戦略事業本部長】

- ①各スポンサー企業との面談（契約関連）
- ②経済同友会とのチケット販売に関する打合せ
- ③愛知県／千葉県バレーボール協会との打合せ
- ④全日本男・女記者会見対応
- ⑤SNS 準備会議 実施
- ⑥バレーボールネーションズリーグ豊田・大阪大会 スポンサー対応
- ⑦公認推薦認定委員会 開催
- ⑧JVA 東京 2020 準備委員会 出席

(2) 中期計画の進捗報告

中期計画の進捗報告について下記の通り報告があった。

2017 年度～2024 年度の JVA の収支がどのように推移していくのかを、最悪・最良シナリオの 2 つのパターンでシミュレーションをし、おおまかな収支及び正味財産の推移予測について作成した。

今後予定されている国際大会を日本で開催するか否かによる収入・費用の増減や、協賛金・補助金の増減を比較予想した。どうしたら、最悪シナリオを食い止め、最良シナリオに近づけるのか、本日ご意見をいただいた上で、今後は具体的な経営戦略・対策を盛り込み中期計画を策定していきたい。

※中期収支予想については資料記載の通り。

(3) 他団体役員推薦について

他団体役員推薦について下記の通り報告があった。

前理事の井原実氏が（70 歳定年に伴い）理事の任期を 2017 年 6 月で満了した。その際、本人の申し出により、同年 8 月に JOC の評議員についても任期の途中で、（期間は平成 31 年 6 月まで）辞任された。JVA としては、是非後任を推薦したいとの意向を JOC 側に伝えていたが、今般 JOC より評議員の推薦の依頼があり、後任に副会長の志水雅一氏を推薦した事について報告された。

(4) バレーボール用語の統一について

バレーボール用語の統一について、下記の通り報告があった。

現在、バレーボール用語は様々な言葉が混在している。そこで、JVA 東京オリンピック・パラリンピック競技大会準備委員会のレガシー推進部の中で、東京 2020 大会に向けて、用語の統一をすべきとの意見がだされ、関係者による検討がおこなわれ、お手元のバレーボールの統一用語案を作成した。

※バレーボールの統一用語案については資料記載の通り。

(5) 功労者Ⅱ表彰報告

功労者Ⅱ表彰報告について志水副会長より下記の通り報告があった。

○第9期（2018年度）第1回功労者Ⅱ表彰者

（5月21日開催された功労者表彰委員会にて表彰決定）

- ・岩間博 京都府バレーボール協会 副会長
- ・岸本強 島根県バレーボール協会 顧問

以上をもって、議事の全ての審議を終了した為、議長は17:15に開会を宣した。